

Q. 「地域密着型サービスとしての理念」について、理念を変更していくことが望ましいのでしょうか。

A. 理念というのは「できあがったらそれが永遠」ではなくてよいと思います。事業所は日々の実践を通して徐々に進化するとともに、利用者、家族、地域等の関係やさまざまなトラブルがあることにより問題意識がどんどん深まっていくわけです。最初の理念がずっと続いていくよりもむしろ、今までの理念では解決しきれなかった問題があるとすれば、それに合わせて理念をみんなの力で考え直していくことが重要だと思います。

最近「お年寄りの言葉に耳を傾ける」、「地域に根ざす」等ありきたりの理念がよく使われています。最初から完璧で崇高な理念を掲げ、みんなが手を取り合って一丸となって推進しているというような事業所はそんなにありません。例えば、運営者は資金のことが大変だと言い、ケアのことや現場職員とのギャップができ、反目し合ってしまうということがあるかもしれません。しかし、運営者自身もケアのことなどにまったく無関心で事業を開始した訳ではありません。何等か一致する部分があるはずで、みんなが一致することや重なり合っている部分について、見つけ合ったり認め合ったりすることが、その事業所のめざすサービスのあり方を映し出していくことになるのではないのでしょうか。理念というのは、自分と共に成長するものであり、育てていくものだと思います。

(評価機関学習会より アザレアンさなだ総合施設長宮島渡氏)